

読む

ようすやこうどうをよみとろう(2)

「子どものすきな神さま②」

名前

※もとの文しよの「ぶをかえています。」
「おにごっこしよ。」
「しよよ、しよよ。」
しよして、ひとりの子がリーダーになり、あとの十二人が、一れつにならびました。
「きをつけ。ばんごう。」
とリーダーがごうれいをかけました。

「一ツ。」

「二ツ。」

「三ツ。」

「四ツ。」

「五ツ。」

「六ツ。」

「七ツ。」

「八ツ。」

「九ツ。」

「十ツ。」

「十一ツ。」

「十二ツ。」

と十二人の子どもたちがばんごうをいってしまいました。そのとき、だれのすがたもみえないのに、十二ばん目の子どものつぎで、

「十三ツ。」

といった人がいました。玉をころがすようなよこえでした。

そのこえをきくと子どもたちは、

「それ、そこだツ。神さまをつかまえろツ。」

といて、十二ばん目の子どものよこをとりました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子どものことだから、つかまったらどんなめにあうかしれません。

ひとりの子どものまたの下をくぐって、神さまは森へにげかえりました。けれど、あまりあわてたのでくつをかたほうおとしてきてしまいました。

子どもたちはゆきの上から、まだあたたかい小さな赤いくつをひろいました。

「神さまはこんな小さなくつをはいてたんだね。」

といてみんなでわらいました。

そのことがあってから、神さまはもうめったに森から出てこなくなりました。それでもやはり子どもがすきなものだから、子どもたちが森へあそびにいくと、森のおくから、
「おおい、おおい。」
とよびかけたりします。

(新美南吉作 にいみなきち 子どものすきな神さま)

【一】一れつにならんでいる子どもはなん人居ますか。あてはまるかずをかん字でかきましょう

人

【二】「十三ツ。」といったのはだれですか。 の中にかきましょう。

【三】神さまはどんなくつをはいていましたか。 の中にかきましょう。

くつ

【四】「子どものすきな神さま①、②」をよんで心にのこったところをえらび、かん字をかきましょう。

読む

ようすやこうどうをよみとろう(2)

「子どものすきな神さま②」

名前

こたえ

※もとの文しよの「ぶをかえています。」
 「おにごっこしよ。」
 「しよよ、しよよ。」
 そうして、ひとりの子がリーダーになり、あとの十二人が、一れつにならびました。
 「きをつけッ。ばんごうッ。」
 とリーダーがごうれいをかけました。

「一ッ。」

「二ッ。」

「三ッ。」

「四ッ。」

「五ッ。」

「六ッ。」

「七ッ。」

「八ッ。」

「九ッ。」

「十ッ。」

「十一ッ。」

「十二ッ。」

と十二人の子どもたちがばんごうをいってしまいました。そのとき、だれのすがたもみえないのに、十二ばん目の子どものつぎで、

「十三ッ。」

といった人がいました。玉をころがすようなよこえでした。

そのこえをきくと子どもたちは、

「それ、そこだッ。神さまをつかまえろッ。」

と、十二ばん目の子どものよこをとりました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子どものことだから、つかまったらどんなめにあうかしれません。

ひとりの子どものまたの下をくぐって、神さまは森へにげかえりました。けれど、あまりあわてたのでくつをかたほうおとしてきてしまいました。

子どもたちはゆきの上から、まだあたたかい小さな赤いくつをひろいました。

「神さまはこんな小さなくつをはいてたんだね。」

と、みんなでわらいました。

そのことがあってから、神さまはもうめったに森から出てこなくなりました。それでもやはり子どもがすきなものだから、子どもたちが森へあそびにいくと、森のおくから、
 「おおい、おおい。」
 とよびかけたりします。

(新美南吉作 にいみなきち 子どものすきな神さま)

【1】一れつにならんでいる子どもはなん人居ますか。あてはまるかずをかん字でかきましよう

十二人

【2】「十三ッ。」といったのはだれですか。□の中にかきましよう。

神さま

【3】神さまはどなくつをはいていましたか。□の中にかきましよう。

小さな赤い

くつ

【4】「子どものすきな神さま①、②」をよんで心にのこったところをえらび、かんそうをかきましよう。

(例) 神さまをつかまえようと

しているところが心にのこりま

した。わたしも神さまとあそんで

みたいです。